校長室だより

２０２１年　４月　９日
校長　小崎（こさき）　功二（こうじ）

保護者の皆様，はじめまして。このたび赴任いたしました校長の小崎功二と申します。
郡山小学校の子供たちのために，保護者や地域の皆様と力を合わせながら，全職員一丸となった取組を進めて参ります。
どうぞよろしくお願いいたします。

「常に卵の側に」　以下は，２００９年にイスラエルの文学賞「エルサレム賞」を受けた作家の村上春樹さんが現地で行ったスピーチの一部です。

「高くて硬い壁と，壁にぶつかって割れてしまう卵があるときには，私は常に卵の側に立つ。壁がどんな正しかろうとも，その卵がどんな間違っていようとも，私の立ち位置は常に卵の側にあります。この比喩の意味するところは何でしょうか。・・・爆弾・戦車・ミサイルは高くて硬い壁である。卵はこれらに撃たれ，焼かれ，つぶされた，非戦闘市民である。これがこの比喩の意味するところの一つです。しかしこれが全てではありません。もっと深い意味もあるのです。・・・私たちは皆それぞれ，多かれ少なかれ，一つの卵であると。皆，薄くてもろい殻に覆われた，たった一つのかけがえのない魂であると。そして私たちは，程度の多少はあるにせよ，皆高くて硬い壁に直面しているのです。この壁には名前があります。それは“システム”というのです。・・・私たちは，“システム”と呼ばれる，高くて硬い壁に直面している壊れやすい卵です。誰がどう見ても，私たちが勝てる希望はありません。壁はあまりに高く，あまりに強く，そしてあまりにも冷たい。しかし，もし私たちが少しでも勝てる希望があるとすれば，それは皆が（自分も他人もが）持つ魂が，かけがえのない，とり替えることができないものであると信じ，そしてその魂を一つにあわせたときの暖かさによってもたらされるものであると信じています。・・・私たちは皆それぞれが，生きた魂を実体として持っているのです。“システム”はそれを少しも持ってはいません。だから，“システム”が私たちを利用することを決して許してはならない，“システム”に意思を委ねてはならないのです。“システム”が私たちを創ったのではない，私たちが“システム”を創り出したのですから・・・。」

私はこのスピーチに接してから，学校も”システム”だと，改めて考えさせられました。上記に当てはめて考えれば，学校というシステムの中で，個々の子供たちは（教職員も）卵です。
私も，「常に卵の側に立つ」ことを心がけて参ります。

学校評価アンケートについて（お願い）

これまで，毎年年末に実施している保護者アンケートにおいて，項目ごとの評価と共に，自由記述で御意見・御要望・御提案などをいただいておりました。項目ごとの評価は集計して傾向等について分析し，自由記述については，学校運営改善のための建設的な御意見や御要望などを職員で共有し，次年度の教育活動に生かすという１年サイクルでの学校評価を行って参りました。しかし，自由記述の中には，次年度に生かすというよりも，お気付きの時点でお知らせいただき，随時迅速に対応（あるいは回答）すべきことや，学校評価とは無関係な内容なども含まれていました。

そこで今年度は，この「校長室だより」で校長の考えや学校の様子などをお知らせしながら，以下の様式を使用して保護者の皆様からの御意見や御提案，御要望等を随時吸い上げ，随時受け止めながら学校運営に生かして参ります。それに伴い，１２月に実施する学校評価アンケートには，自由記述蘭は設けないこととといたします。(年1回しかなかった学校評価の自由記述欄を，校長室だよりに毎回設けることにいたします。)

今後も「学校だより」「校長室だより」「学年・学級だより」「保健だより」「給食だより」「学校ホームページ（ブログ）」等，学校からの情報発信に努め，風通しの良い学校を作っていくために努力して参ります。「全ては，大切な子供たちのために」という同じ目的のために，手を携えて参りましょう。御理解と御協力をどうぞよろしくお願いいたします。

切り取り線

学校の教育活動への御意見・御要望・御提案・御感想，　校長に知らせたいこと　など

2021 年 4 月 9 日（　）年（　）組 児童氏名

※匿名でも結構ですが，御連絡が必要な場合等を考え，記名していただけるとありがたいです。
※担任に御提出いただいても，校長室前のポストに直接入れていただいても，校長に直接手渡していただいても，いずれでも結構です。